

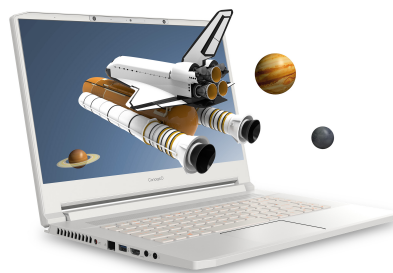
裸眼で立体視できる 3D 体験を実現し、 クリエイターを後押しする革新的な没入型体験 SpatialLabs™ を発表

Acer のクリエイター向けブランド ConceptD に SpatialLabs™ のテクノロジーを搭載したプロタイプノート PC を開発 ～日本を含む全世界に向けた、デベロッパー募集プログラムをスタート～

* 本リリースは 2021 年 5 月 27 日に台湾 Acer より配信されたリリースの抄訳です。

概要

- ・SpatialLabs™(スペイシャルラボ)は、アイトラッキングステレオカメラ、立体 3D ディスプレイ、リアルタイムレンダリング技術の 3 つを組み合わせることにより、クリエイターが作品と対話する全く新しいソリューションを提供します。クリエイター向けブランド ConceptD より SpatialLabs™ のテクノロジーを搭載したプロタイプノート PC を公開しました
- ・SpatialLabs™ Experience Center(スペイシャルラボ エクスペリエンスセンター)は、立体 3D 技術のあらゆるシーンでの利用を可能にし、クリエイターはワンクリックで、立体 3D でモデルを見ることが可能です
- ・Acer は、3D 制作プラットフォームである Unreal Engine の開発者向け「SpatialLabs™ デベロッパープログラム」を開始。SpatialLabs™ との取り組みに関心のあるデベロッパーを募集します



(台北、台湾)Acer は 2021 年 5 月 27 日に、SpatialLabs™ (スペイシャルラボ)を発表しました。SpatialLabs™ は、最先端の光学ソリューションに加え、仮想世界をより物理的な次元で表すディスプレイとセンサー技術、最新のリアルタイムレンダリング技術によって構成され、直感的なインタラクションをもたらす一連の没入型立体 3D 体験を提供します。3D メガネや VR ゴーグルは不要。裸眼で立体コンテンツがディスプレイの前に浮かんで見え、クリエイターはリアルタイムで 360 度の角度から作品を見ることができます。

また、Acer は 3D 制作プラットフォームである Unreal Engine(アンリアル エンジン)の開発者を募集する、「SpatialLabs™ デベロッパープログラム」も発表しました。本プロジェクトに参加申し込みをし、選定されたデベロッパーは、クリエイター向けブランド ConceptD(コンセプトディー)の SpatialLabs™ プロタイプノート PC を利用することができます。

Acer の共同 COO であるジェリー・カオ (Jerry Kao) は、「クリエイター向けブランド ConceptD を通じたクリエイターへのコミットメントをさらに強化し、没入型体験を可能にする Acer の取り組みの次なるステップである SpatialLabs™ を世界中の方々に発表することを非常に嬉しく思います。SpatialLabs™ は、3D デザイナーのクリエイティブなプロセスに時間とリソースを集中させ、現在のワークフローの劇的な向上と効率化をもたらします。さらに、SpatialLabs™ が Unreal Engine に対応することで、さまざまな分野で全く新しい驚くべき体験を生み出せるよう、デベロッパーを後押ししてまいります」とコメントしています。



最先端の光学ソリューションとテクノロジー

SpatialLabs™ の没入型体験は、アイトラッキングソリューション、立体 3D ディスプレイ、リアルタイムレンダリング技術の組み合わせにより生み出されています。アイトラッキングソリューションは、デバイスの上部に配置されたステレオカメラセットから成り、ユーザーの頭と目の位置と、動きを追跡します。デベロッパープログラムの参加者に提供される ConceptD の SpatialLabs™ プロタイプノート PC のディスプレイは、液晶レンチキュラーレンズが光学的に接着された UHD 2D パネルで構成され、この革新的なモジュールで 2D ビューと立体 3D ビューを瞬時に切り替えることができます。

これらを組み合わせることで、グラフィック処理技術が視聴者の左右の目に異なる画像を表示し、コンテンツが画面の前に浮いて見える立体的な 3D 効果を作り出すことができます。またリアルタイムレンダリング技術により、クリエイターは SpatialLabs™ が提供するアプリケーション「SpatialLabs™ Experience Center」を通じて 3D モデルの操作や、作成したものをその場でリアルタイムにレビューすることが可能になります。デザインワークフローを向上し、プロジェクトを効率的かつ効果的にインタラクティブで没入感のある立体的な 3D で表示することができます。

画面に浮かび上がる作品

一連のテクノロジーは、3D コンテンツを扱うクリエイターにとって革命的なものになります。設計者(デザイナー)は通常、3D のオブジェクトやシーンの奥行きについては限られた情報しか表示されない 2D ディスプレイで作業します。しかし、SpatialLabs™ によりクリエイターはリアルタイムで自身のプロジェクトを 3D で見るできるようになります。

従来クリエイターは、作品の比率が正しくなるように、異なる角度から複数のスケッチを作成する必要がありました。コンピューターはこのプロセスを改良してきましたが、2D スクリーンで 3D の比率を判断することは難しいため、設計者の判断に任される部分が多くなっています。SpatialLabs™ Model Viewer (スペイシャルラボ モデルビューア) は、設計者がすぐに使用できる 3D の次元を提供することで、これまでのクリエイターへの負荷を排除し、思いのままに 360 度の視点でモデルを回転、移動、画面からドラッグして、すべての角度からオブジェクトを確認することを可能にします。360 度の視点からでなく同じ角度からモデルを検討する場合でも、2D モデルよりも立体 3D モデルの方がより多くの情報を利用することができます。

また作品を 1:1 の比率で、立体 3D で見ることができるため、3D デザインがオリジナルのコンセプトデザインと一致しているかどうか、問題があるかどうかを確認するプロセスが格段にスピードアップします。例えば、プロダクトデザイナーは SpatialLabs™ Model Viewer を使用して、作成中のアイテムがどのように見えるかを把握してから、効率的に印刷やツール化する作業に移ることができます。さらに、作成したモデルのハイダイナミックレンジイメージ (HDR) 背景を変更する機能により、自然でリアルな環境でモデルを表示できます。これにより、マネージャーやチームメンバーはプロジェクトの各段階でより明確なフィードバックをクライアントに提供することができ、クライアントもまたアイテムを簡単に視覚化して、期待に沿ったものであるかどうかを確認することができます。



SpatialLabs™ Experience Center (SpatialLabs™ エクスペリエンスセンター)

ConceptD の SpatialLabs™ プロタイプノート PC のディスプレイは、デフォルトで 2D モードに設定されており、通常のノート PC としても使用できます。SpatialLabs™ Experience Center でアプリケーションを起動すると、立体 3D モードが自動的にオンになります。

ランチャーである SpatialLabs™ Experience Center では、このテクノロジーの使い方のチュートリアル、アプリケーションへのショートカット、アプリケーションとアドオンのインストーラーが含まれています。現在、アプリケーションには次のものがあります。

- SpatialLabs™ Model Viewer: 主要な 3D 形式のファイルをインポートし、立体 3D で表示できるツールです。SpatialLabs™ Model Viewer では、ユーザーの頭の位置情報が、表示された 3D モデルに組み込まれます。例えば、左や右に移動すると、ユーザーがオブジェクトの横に移動したかのように、3D モデルが反対方向にリアルタイムに回転します。
SpatialLabs™ Model Viewer のアドオンは、Blender や Autodesk Fusion 360 などの主要な 3D ソフトウェアで使用でき、これらのアプリケーションで作成されたファイルをワンクリックで SpatialLabs™ Model Viewer に転送することができます。
- SpatialLabs™ Go: サイドバイサイド方式のフルスクリーンの内容を立体 3D にレンダリングするための独自のソリューションです。たとえば、Blender を利用してサイドバイサイド方式で全画面表示した後、SpatialLabs™ Go を使用して立体 3D に変換することができます。
- PiStage for May: ミドルウェアである PiStage は、時間のかかるレンダリングパイプラインをスキップできるツールです。これにより、ユーザーは拡張 2D モニター上でコンテンツを作成または編集し、立体 3D で変更点をリアルタイムに SpatialLabs™ で表示することができます。
- SpatialLabs™ Player: 3D 立体視でサイドバイサイド方式のビデオを表示するネイティブプレーヤーです。

デベロッパープログラム

SpatialLabs™ は、3D 制作プラットフォームである Unreal Engine に対応しています。クリエイターが自分のビジョンを自由に実現できるように、また、デベロッパーやプロダクションチームが品質やスケラビリティを犠牲にすることなく、これまで以上に迅速にコラボレーションやイテレーションを行えるようにするものです。

Unreal Engine のエンタープライズビジネス開発責任者である John Buzzell 氏は次のように述べています。「我々のチームは、今回の新たな ConceptD の SpatialLabs™ プロトタイプノート PC と SpatialLabs™ デベロッパープログラムが持つ可能性に心躍っています。なぜなら革新的なコンテンツとアプリケーションを最新のビジュアライゼーションと組み合わせることで、手に届きやすく魅力的な、没入感のある体験が得られるからです。」

デベロッパーの想像力を現実のものとし、後押しするために、Acer はデベロッパー向けプログラムをスタートします。2021 年 5 月 27 日から募集を開始し、世界中どの国からでも応募いただくことが可能です。応募締め切りは、2021 年 6 月 30 日で、その後スクリーニングのプロセスを経て参加デベロッパーを選定します。

選定されたデベロッパーには、ConceptD の SpatialLabs™ プロトタイプノート PC を 3 ヶ月間に渡って無償でレンタル提供。デベロッパーは提供されたデバイスを使用して Unreal Engine でプロジェクトを作成することができます。作成されたプロジェクトは、Acer が 1 年間、デモや展示で利用させていただきます。製品開発に役立てる目的もあり、デベロッパーからのフィードバックの回収や、デベロッパーへのインタビューを行う予定です。

申し込みはこちらから受け付けています(英語のみ)。

<https://webforms.pipedrive.com/f/1CuYhTvTecDcm0BLPMhGMNWrbDM8gFrqNucU8D0eM90z0AxUcQdpH34uwxG9D75hF>

プレスリリースページ

<https://acerjapan.com/news/2021/02A010>



Acer について

1976 年の創業以来、Acer はハードウェア+ソフトウェア+サービスカンパニーとして、人々の生活を豊かにする革新的な製品の研究、デザイン、マーケティングおよび販売とサポートを行っています。パソコン、ディスプレイ、プロジェクター、サーバー(国内未発表)、タブレット、スマートフォン、ウェアラブル(国内未発表)に至る幅広いレンジの製品を提供するとともに、IoT (Internet of Things) に向けたクラウドソリューションの開発も推進しています。Acer は現在、全世界で約 7,000 人の従業員を数え、160 以上の国と地域で展開しています。

詳細は www.acer-group.com (英語版)をご覧ください。

日本エイサー株式会社について

社名：日本エイサー株式会社

所在地：東京都新宿区西新宿 6-24-1 西新宿三井ビルディング 18F

代表者：代表取締役社長 詹 國良 (ボブ・セン)

公式サイト：<https://acerjapan.com>

公式 facebook：<https://www.facebook.com/AcerJapan>

公式 Twitter：<https://www.twitter.com/AcerJapan>

Gaming 公式 Twitter：<https://twitter.com/PredatorJPN>

公式 Instagram：https://www.instagram.com/acer_japan/

公式 YouTube：<https://www.youtube.com/user/AcerJapanChannel>

© 2021 Acer Inc. All rights reserved. Acer と Acer ロゴは Acer Inc. の登録商標です。その他商標、登録商標、サービスマーク等の著作物の著作権は、帰属表明の有無に関わらず、それぞれの権利者に帰属します。発表内容は予告なしに変更または削除されることがありますのであらかじめご了承ください。

© 2021 Acer Inc. All rights reserved. Acer and the Acer logo are registered trademarks of Acer Inc. Other trademarks, registered trademarks, and/or service marks, indicated or otherwise, are the property of their respective owners. All offers subject to change without notice or obligation and may not be available through all sales channels.